

御宿町地震ハザードマップ (地震防災地図)

地震はいつどこで発生するかわかりません。地震による被害をできる限り少なくするためには、日頃からの備えが大切となります。

この「地震ハザードマップ」は、町民の皆さまが地震に対して備える意識を高めていただくために作成しました。



木造建物の耐震性のチェックポイント

ご自宅の耐震性について確認してみましょう。

- ①建てたのは昭和56年(1981年)5月以前である。
- ②過去に浸水、火災、車の突入事故などに見舞われたことがある。
- ③壁や基礎にひび割れがある、傾いているのが分かるなど老朽化している。
- ④建物の平面の形状や偏って大きな窓があるなど耐震性に関わる問題がある。

気になる点があれば、信頼できる建築士などに相談してみましょう。

お問い合わせ先

御宿町役場 建設環境課
〒299-5192 千葉県夷隅郡御宿町須賀 1522
電話番号 0470-68-6694
<http://www.town.onjuku.chiba.jp/>

裏面を見やすい場所に貼っておきましょう

揺れやすさマップについて

1 揺れやすさマップとは

「揺れやすさマップ」は、想定した地震の震源、マグニチュード、地盤の状況等から震度の予測結果を表示したものです。

ここでは御宿町で考えられる最大規模の地震として、町の直下を震源としたマグニチュード6.9の仮想の地震を設定したものであり、実際の地震の場合に図のような揺れが生じるわけではありません。

2 震度階級について

震度	計測震度	人間	屋内の状況	屋外の状況
震度6弱	5.5 5.9	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
震度6強	6.0 6.4	立っていることができず、はわなと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。

気象庁震度階級関連解説表より一部抜粋

3 マップの活用方法

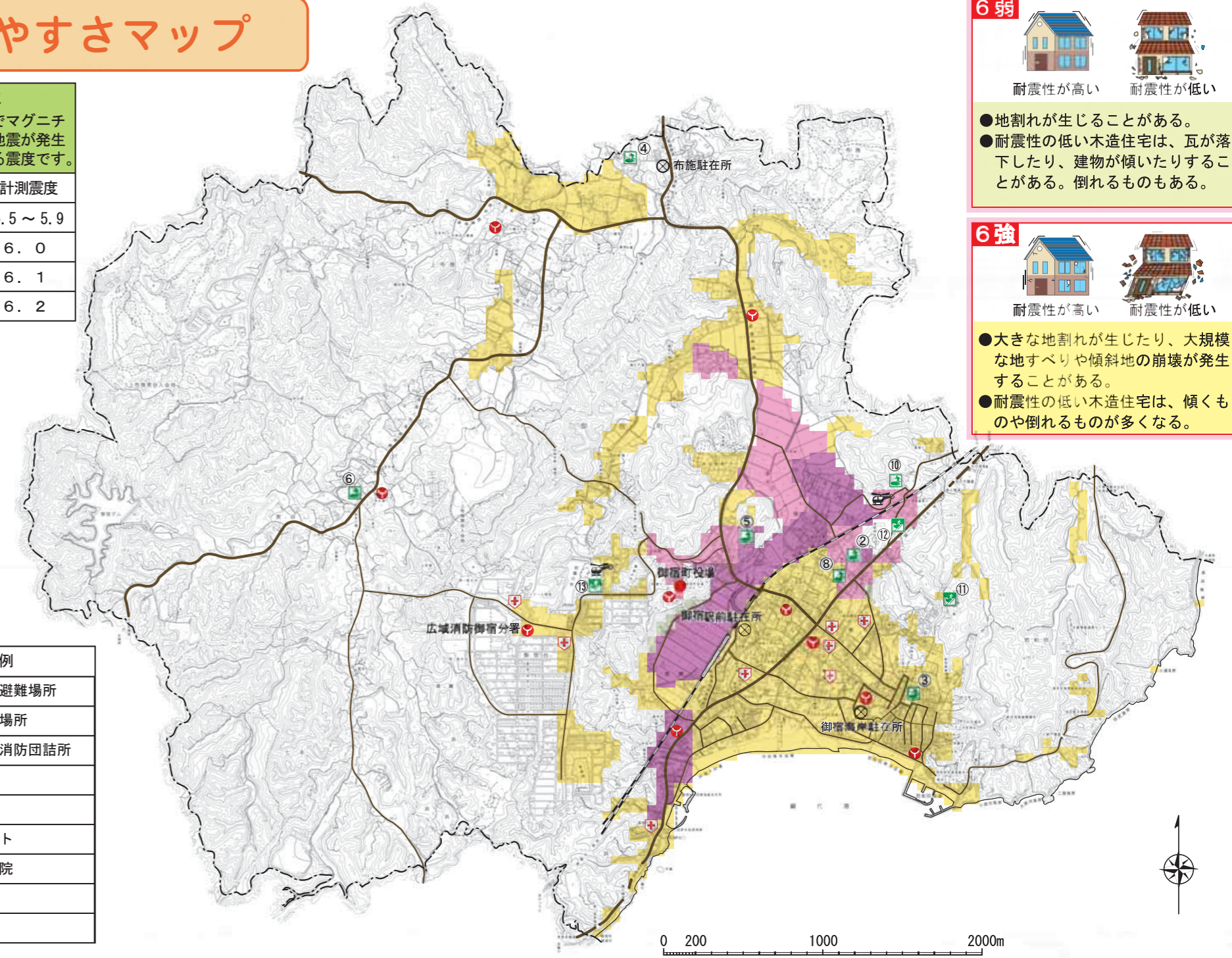
- わが家が建っている地域の揺れやすさを確認しましょう。
- 家の中で寝室や大きな家具などのある場所をチェックし、必要に応じて家具の転倒防止などの対策を行いましょう。
- 避難場所と避難経路を確認し、家族や地域で避難のしかたについて話し合っておきましょう。



揺れやすさマップ

震度階級	
震度は、各地の直下でマグニチュード6.9程度の地震が発生した場合に予想される震度です。	
凡例	計測震度
震度6弱	5.5 ~ 5.9
震度6強	6.0
震度6強	6.1
震度6強	6.2

凡例	
	避難所・避難場所
	一時避難場所
	消防署・消防団詰所
	警察
	町役場
	ヘリポート
	病院・医院
	鉄道
	幹線道路



6弱

耐震性が高い

耐震性が低い

- 地割れが生じることがある。
- 耐震性の低い木造住宅は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強

耐震性が高い

耐震性が低い

- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや傾斜地の崩壊が発生することがある。
- 耐震性の低い木造住宅は、傾くものや倒れるものが増える。

液状化危険度マップについて

1 液状化危険度マップとは

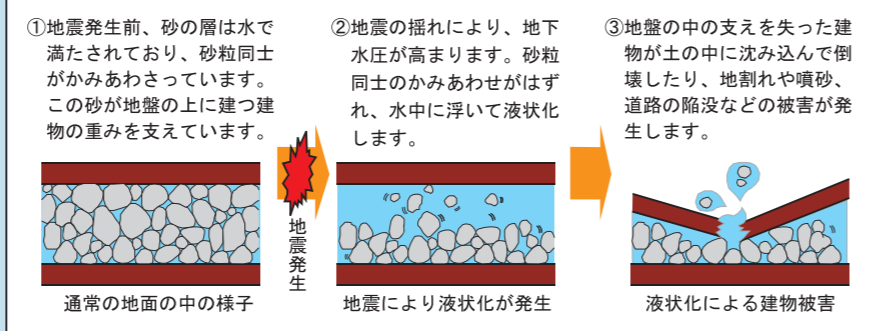
「液状化マップ」は、それぞれの地形区分に応じた液状化の発生しやすさの違いから、液状化の可能性を推定したものです。

2 液状化の現象としくみ

液状化現象は、地震によって地盤が一時的に液体になってしまう現象のことで、地下水位が高く、地下に砂の層がある場所で揺れが発生した場合に起こる現象です。

地盤が液状になるため、重い建物などを支えることができなくなり、建物などの沈下や傾斜が起きたり、マンホールなどが浮き上がったりします。

【液状化現象の起こる仕組み】



3 マップの活用方法

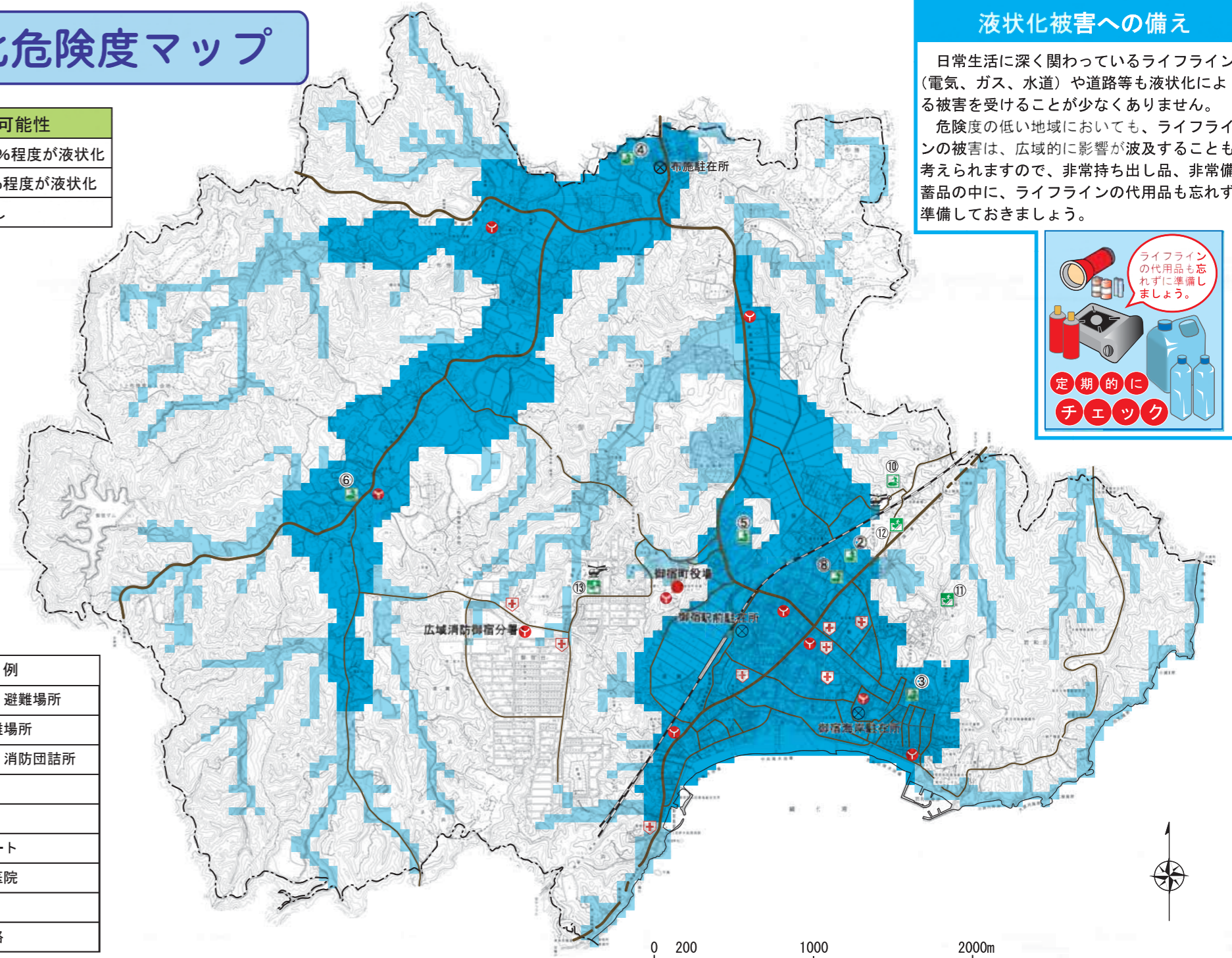
- わが家が建っている地盤の液状化の危険性を確認しましょう。
- 避難場所と避難経路を確認し、家族や地域で避難のしかたについて話し合っておきましょう。



液状化危険度マップ

液状化の可能性	
大	地域の10%程度が液状化
小	地域の2%程度が液状化
無	可能性なし

凡例	
	避難所・避難場所
	一時避難場所
	消防署・消防団詰所
	警察
	町役場
	ヘリポート
	病院・医院
	鉄道
	幹線道路



液状化被害への備え

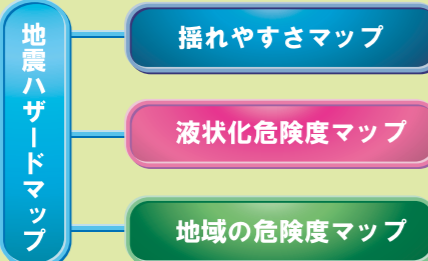
日常生活に深く関わっているライフライン(電気、ガス、水道)や道路等も液状化による被害を受けることが少なくありません。危険度の低い地域においても、ライフラインの被害は、広域的に影響が波及することも考えられますので、非常持ち出し品、非常備蓄品の中に、ライフラインの代用品も忘れず準備しておきましょう。

ライフラインの代用品も忘れず準備しましょう。

定期的
チェック

1 地震ハザードマップとは

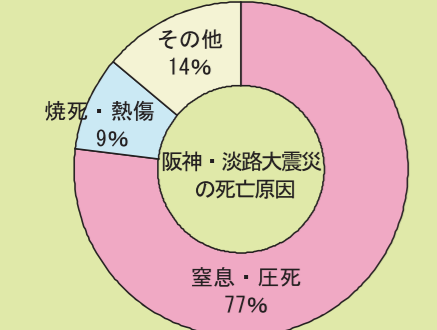
「地震ハザードマップ」は、御宿町の直下に地震が発生した場合に、予測される震度の分布を示す「揺れやすさマップ」、地盤の液状化の危険性を示す「液状化危険度マップ」、そして、建物の被害の危険性を示す「地域の危険度マップ」から構成されています。



2 地震による被害の傾向について

死亡原因の多くが家屋の倒壊

地震による死亡や怪我の原因で最も多いのは、家屋の倒壊や家具の転倒による「窒息・圧死」であり、阪神・淡路大震災での死者の約8割を占めていました。



倒壊した被災家屋 (平成7年阪神・淡路大震災)

出典 「内閣府：住宅における耐震被害軽減に関する指針」

昭和56年以前の建物被害が多数

特に倒壊等の被害が多かったのは、建築基準法による耐震基準改正前の昭和56年以前の建築物でした。